Pray for Japan

パルシステム東京　東日本大震災復興支援活動報告書2015

Pray for Japan2015発刊に寄せて …… P.1
復興支援・災害対策方針 …… P.1
復興支援・災害対策活動（2015.4.1～2016.3.31）…… P.2
復興支援活動報告 …… P.3～12
災害対策活動報告 …… P.12
東日本大震災から5年～復興支援5年のあゆみ～ …… P.13～14

生活協同組合 パルシステム東京

Pray for Japan2015　発刊に寄せて

We have prayed for Japan. We will pray for the earth.

～過去と現在・未来の全てのいのちに祈りを～

生活協同組合パルシステム東京　理事長　**野々山　理恵子**

東日本大震災と東京電力福島第一原発の事故から5年が経ちました。私たちは今、何を祈るのでしょうか。自然への謙虚さを忘れた大規模防潮堤などの槌音が高まる中、仮設住宅にまだ多くの人々が残されている今。復興の名のもとに、放射能汚染が続く土地への帰還政策がとられ、避難者への住宅支援が打ち切りになろうとする今。汚染水で川や世界の海を汚染するだけでなく、除染で出た汚染土の置き場がないために、8,000ベクレル／kg以下の汚染土を全国の公共事業に使い、汚染を日本中に広げるという政策まで出されています。

私たちは被災地の方々に想いを寄せ、少しずつですが継続して支援活動をしてきました。原発事故被害者の方々には支援と、留まることも避難することも選べる権利を求めて運動してきました。失われたいのちと自然、これ以上失われたくないいのちと自然のために祈ってきました。いのちが危機にさらされ続けていく今、祈るだけでなく未来のために行動していかなくては、と考えています。

これまでの活動を振り返り、過去と現在、未来の全てのいのちに祈りをささげると同時に、共に、全てのいのちを守る行動へと想いをつないでいきたいと思います。

2015年度復興支援・災害対策方針

1　3.11東日本大震災を「忘れない」を視点に、風化させないための復興支援活動を継続します。

- 福島を重点とした、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウム等や被災者の体験談実情を理解する学習会、スタディツアーを継続します。
- 「震災復興支援基金（パル未来花（ミライカ）基金）」を通じて、組合員の自主・自発的な震災復興支援活動の輪を広げます。

2　災害に備えた防災訓練および災害対策の強化と組合員の防災意識を高めます。

- 首都直下地震に備えた防災訓練、事業継続計画に基づき、早期復旧対策に向けた仕組みを強化します。
- 組合員が防災意識を高めるための出前講座や機関誌等の広報を通じて災害対策の情報提供、行政や他団体と連携した取り組みも広めます。

3　その他の取り組み

- 子どもの甲状腺検診開始に向けた学習会の開催とモニター検診を検討します。
- 各地で起きている異常災害による被災に対し、迅速に情報を入手し、必要な組織支援をすすめます。

主な復興支援・災害対策活動（2015.4.1～ 2016.3.31）

日　程	内　容
4月13日～ 5月1日	「原発事故被害者の救済を求める全国運動　第二期署名『原発事故被害者の住宅・健康・保養支援の立法化と完全賠償の実現を求める請願署名』」を組合員を対象に実施。3月の役職員署名とあわせ、5月27日に16,031筆の署名を衆・参両議院議長へ提出
5月	「新しい東北」官民連携推進協議会からの要請に基づき、同ウェブサイトに震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」「福島支援カンパ」を掲載
5月16日～ 17日	パルシステムグループ主催「山形週末保養」（福島の子どもたち保養プログラム）へ職員1人が参加
6月	2015年度上期 震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」より6グループの活動に総額1,642,710円を助成
7月4日	福島支援カンパ贈呈団体「未来の福島こども基金」総会に役員2人が参加
7月9日	練馬区生協連絡会主催「あなたと家族を守る学習会『災害と食 調理・試食』」に職員が講師として協力。職員・組合員7人が参加
7月16日	広域避難者支援連絡会in東京主催「第9回広域避難者支援ミーティングin東京」に職員2人が参加
7月25日～ 7月26日	「宮城県東松島市『夏祭り』支援&スタディツアー」を開催。35人（組合員21人、員外協力者1人、役職員13人）が参加
8月2日～ 6日	震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」助成グループ「福島こども支援・八王子」の保養キャンプへ食材支援
8月7日	「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針改定（案）」に対する意見書を復興庁に提出
9月1日	東京都・立川市合同総合防災訓練に職員2人が参加（東京都生協連連携）
9月5日	「復興支援・災害対策活動って、私にもできる？～話を聞いてみよう～震災復興支援基金『パル未来花（ミライカ）基金』報告会」（参加47人：助成グループ24人、組合員4人、役職員等19人）、2015年度同基金下期申請説明会（参加19人：組合員13人、役職員6人）、2015年度同基金上期会計報告説明会（参加11人：組合員9人、職員2人）を開催
9月18日	広域避難者支援連絡会in東京主催「第10回広域避難者支援ミーティングin東京」に職員2人が参加
10月3日～ 12月5日	東京都生協連コープ災害ボランティアネットワーク主催「第15期コープ災害ボランティア養成講座」に10人（組合員7人、役職員3人）が参加
10月24日	広域避難者支援連絡会in東京主催「避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」に出店及び協賛。9人（組合員ボランティア5人、役職員4人）が参加
11月3日～ 4日	「福島スタディツアー」を開催。31人（組合員21人、役職員10人）が参加
11月7日	「八王子センターまつり」にブースを出展、復興支援活動のPRを実施
11月8日	足立区からの要請で、足立区総合防災訓練の会場にブースを出展。6人が参加
11月11日	パルシステム東京の事業継続計画書（BCP）を制定
11月16日～ 12月11日	「福島支援カンパ」を実施。組合員より6,113,500円が寄せられる（城南信用金庫「ボランティア預金」の利息分1,000,000円他と合わせて総額7,113,680円を6団体に贈呈）
11月21日	未来の福島こども基金・チェルノブイリ子ども基金の活動報告会「2015年夏 子どもたちの保養・チェルノブイリと福島」を同団体と共催。87人（組合員8人、員外75人、役職員4人）が参加
11月24日	管理職対象に「首都直下地震対応図上演習」を開催。役職員57人が参加
11月	2015年度下期 震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」より10グループの活動に総額2,357,290円を助成
11月	パルシステム連合会主催「2015年度福島子ども保養カンパ」へパルシステム東京より300,000円を組織カンパ
12月5日	フクシマ避難支援・キエフの子ども達との交流をすすめる下町実行委員会主催「フクシマ激励キエフの子ら ウクライナ民族舞踊団『ゼルニャトコ』公演」に協賛
2016年2月6日	311受入全国協議会主催「2016春ほよ～ん相談会」へ助成（2015年度パルシステム東京市民活動助成基金）
2月8日	パルシステム連合会主催「福島原発事故から5年を迎えて 福島の今から未来をつなぐ」で、パルシステム東京の復興支援活動を報告
2月11日	「パルシステム東京『甲状腺モニター検診』キックオフ学習会 原発事故から5年 学ぼう、考えよう、放射能とその影響」を開催 99人（組合員74人、役職員等25人）が参加
2月12日	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク準備会主催「災害時の連携を考える全国フォーラム」に職員2人が参加
2月13日	楢葉町社会福祉協議会及び、震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」助成グループ「ならは盛り上げ隊」からの要請により、同町仮設住宅での「第5回ならは雪まつり2016」へ食材支援
2月20日	「パルシステム東京子どもの甲状腺モニター検診」を実施。いわき放射能市民測定室たらちねの協力で、組合員・役職員の子ども66人が受診
3月2日～ 3日	みやぎ生協主催「避難者支援から地域のみんなでまちづくり」交流会に職員2人が参加
3月5日	東日本大震災復興支援シンポジウム「震災から5年、これから私たちにできること」を開催。120人（組合員44人、員外6人、団体関係者39人、役職員22人、関係者9人）が参加。シンポジウムの中で「福島支援カンパ贈呈式」を実施。6団体に贈呈
3月5日	2016年度パル未来花（ミライカ）基金助成活動申請説明会を同日に2回開催。1回目に16人（組合員6人、員外6人、役職員4人）、2回目に10人（組合員6人、役職員4人）が参加
3月21日	震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」2015年度会計説明会を開催。8人（組合員4人、職員4人）が参加
3月26日～ 28日	「春休み！東京でリフレッシュ！『パルシステム福島親子保養企画』」を開催。パルシステム福島より組合員親子16組39人、役員3人が参加。交流会にパルシステム東京組合員親子13組32人が参加

東日本大震災支援活動ブログ Pray for Japan

パルシステム東京の東日本大震災支援活動ブログでは、
2011年3月からの復興支援活動を紹介しています。
パルシステム東京ホームページ（http://www.palsystem-tokyo.coop）より

「震災復興支援基金（パル未来花基金）」を通じて、組合員の自主・自発的な震災復興支援活動の輪を広げます。

震災復興支援基金「パル未来花基金」

私たちはこれまで被災された方々に寄り添い、その生活の復興のためになにができるのかを考え、「忘れない」ことをキーワードに実践してきました。これからも求められるのは、多くの組合員と役職員が情報を共有し、学びあうこと。「自分にもなにかできるはず」と思うこと。そしてその思いを実践につなげることです。この実践を資金面で応援するため、2014年7月に「生活協同組合パルシステム東京震災復興支援基金」（愛称：パル未来花基金）を設立。基金の原資は震災復興支援積立金を活用しています。

2015年度助成グループ（上期・下期）（50音順）

石巻スコッパーズ応援団（下期）
（助成金214,120円／過去の助成実績：2014年度下期）

仮設住宅での生活が長期化する宮城県石巻市渡波の方々へ、運動不足やストレス解消を目的に、2014年度より日帰りバス保養旅行を企画。2015年度は10月に山形県へ赴き、紅葉観賞、林檎狩り、そば打ち体験、温泉など楽しみました（26人参加）。

教育・芸術・医療でつなぐ会（下期）
（助成金279,170円／過去の助成実績：2014年度下期）

被災地に住む親子の心の復興のため、宮城県の小学校でシュタイナー教育に基づくワークショップ（歌唱、体操等）を行うとともに、医療、教育、保護者の立場から震災体験をどう乗り越えるかをテーマに講演やシンポジウムを開催しました（2015年10月、延べ159人参加）。

清瀬こども劇場・東京の親戚プロジェクト（上期）
（助成額117,950円／過去の助成実績：2014年度下期）

放射能の影響を心配されている方々に、一時的にでも放射能のことを忘れ、家族や友人と休日を過ごし、心と体を休養してもらうため、東京での保養先を手配（東村山2件、清瀬1件、清瀬ホームステイ1件）。2015年度は5回、延べ20人の保養を行いました。

シューレ大学現役OBOG有志石巻支援を風化させない会（下期）
（助成額292,800円）

支援を続け「忘れない」思いを伝えるため、小規模で支援が届きにくい宮城県石巻市立浜仮設住宅にお住いの漁業者の水揚げ、養殖作業などの支援、住民の方々との交流のほか、石巻市の不登校・引きこもり支援団体を訪問、交流（2015年12月）。東京にて支援活動の報告会も2回開催しました。

チャイるのネット・子ども支援WEEKチーム（上期）
（助成額133,000円／過去の助成実績：2014年度下期）

高い放射線量の中で暮らさざるを得ない子どもたちへ、内部被ばくを調べる尿検査の費用を支援するため、東京の西多摩を中心とした商店の協力で募金箱を設置する「子ども支援WEEK」を実施（2015年9月）。16人の無料検査が可能になり、内部被ばくや検査結果の学習会も2回開催しました。

トロンボーン・クァルテット・ジパング（下期）
（助成額208,800円／過去の助成実績：2014年度下期）

被災された方々に、安らいだ時間を過ごしてもらうために、岩手県陸前高田市でプロの音楽家による復興支援コンサート「ハナミズキの祈り」を開催。被災した作者による絵本「ハナミズキのみち」を元に作曲した組曲を演奏しました（2016年3月、約150人参加）。

ならは盛り上げ隊（下期）
（助成額160,800円／過去の助成実績：2014年度下期）

被災された方々に寄り添い、震災や原発事故を風化させないため、福島県樽葉町の方々の仮設住宅での布ぞうり作りを通じたコミュニティやネットワークを周知する「布ぞうりフェスティバル」を同県喜多方市で開催。布ぞうり教室などで交流も深めました（2015年11月、約150人参加）。

NEKOSMILE JAPAN（ネコスマイルジャパン）（上期）
（助成額265,900円／過去の助成実績：2014年度下期）

宮城県東松島市根古の仮設住宅の方たちが、楽しみや、精神的な自立、尊厳を取り戻してもらうことを目的として、手編みしたクラフトバッグを商品化。デザイナーによる商品のブランディング、都内で2回の販売活動、ネット販路の開拓、PRチラシ作成を行いました。

チャイるのネット・子ども支援WEEKチーム

ハート・のんびる

教育・芸術・医療でつなぐ会

助成実績

	助成団体数	助成合計金額
2014年度	12グループ	2,276,710円
2015年度	16グループ（上期 6グループ／下期10グループ）	4,000,000円

愛称『パル未来花基金』

「明るい未来を信じ、新しい花を咲かせるために、みんなで助け合い、力を合わせて、日々努力していく気持ち」という意味を表します。（愛称は組合員公募により決定）

復興支援・災害対策活動って、私にもできる？～話を聞いてみよう～ 震災復興支援基金「パル未来花基金」報告会

日　程　2015年9月5日（土）10:00～13:15

会　場　パルシステム東京新宿本部7階大会議室

参加者　助成グループ24人、組合員4人、役職員等19人

2014年度の助成グループによる活動報告が行われ、それぞれの成果を共有しました。

ハート・のんびる（上期）
（助成額335,700円／過去の助成実績：2014年度下期）

被災された方々が生活を取り戻すため、仮設住宅に独居する高齢者に東京で手作りしたひざ掛けを贈る活動、被災者の手づくり小物販売（売上100%還元）、被災地で落語やミニライブ（2015年8月、延べ約250人参加）を実施。活動とともに「忘れない」の気持ちを届けました。

はんど・めいどOHANA（下期）
（助成金59,800円／過去の助成実績：2014年度下期）

東京に避難中の被災された方々に楽しんでもらうため、デコパージュ石鹸とスイーツデコマグネットの講習会を開催（2015年12月、避難中の方が9人参加）。また宮城・福島で被災した方達の手作り品を預かり販売し、売上げの9割を制作者に還元しました。

東日本大震災「祈り」実行委員会（下期）
（助成金265,000円）

震災の風化を防ぎ、被災された方々を励ますため、渋谷区「みやしたこうえん」で3日間の復興支援事業（「東北六軒茶屋」、被災地現状を伝えるシンポジウム、被災された芸能家による舞台演奏など）を開催しました（2016年3月、延べ約2390人参加）。発起人は東北のアーティスト「天地人」。

福島こども支援・八王子（下期）
（助成金433,000円／過去の助成実績：2014年度下期）

被災した子どもと保護者に、日ごろのストレスを癒してもらうため、春休みに町田市大地沢で3泊4日の合宿を開催。山歩き、川遊び、お菓子作りなど、八王子市民のボランティアと交流しながら楽しみました。福島から大人14人、子ども32人、避難者大人2人、子ども2人が参加（2016年3月）。

藤結びの会（上期）
（助成額493,360円）

震災直後からつながりのある、岩手県陸前高田市の仮設住宅、子育て支援センター、B型作業所と連携し、コミュニティ作りやストレス軽減を目的とした交流イベント（小物作りやお茶会）を複数回開催しました。作業所では、農作業の手伝いや生産物販売サポートなども（2015年5月、7月、9月）。

星の語り部（下期）
（助成額357,400円／過去の助成実績：2014年度下期）

被災し仮設住宅に住む方々に、宇宙の広さに目を向けこころを軽くし、また、空を見上げることで明日への活力を見つけてもらうため、宮城県石巻市、南三陸町、気仙沼市、仙台市の仮設住宅など11ヵ所で、プラネタリウム、シアター、展望会、星空工作などを出前方式で開催しました（2015年11月）。

ホッとタイムinキャラバンプロジェクト（上期）
（助成額296,800円）

福島県南相馬市鹿島区内塚合の仮設住宅の方々が、日々のストレスや疲れを心身共に癒すことを目的に、五感を使ったイベント（アロマの会、歌の会、アコーディオン演奏会、プリザーブドフラワー作りなど）で交流を実施しました（2015年7月、9月）。

リボンの会（下期）
（助成額86,400円）

原発事故の風化を防ぐことを目的に、東京都江東区にて、被災した劇団「風の子東北」による、福島の現状を伝える舞台「ひとり芝居『フクシマ発』」を開催。地域のNPOとも協力し、幅広い年代の人達へ伝えることができました（2015年11月、大人85人、子ども25人参加）。

東日本大震災「祈り」実行委員会

福島こども支援・八王子

星の語り部

福島を重点とした、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウム等や被災者の体験談実情を理解する学習会、スタディツアーを継続します。

宮城県東松島市「夏祭り」支援&スタディツアー

2011年度に組合員と役職員が協力し、宮城県東松島市の仮設住宅で「パル・パラソルカフェ」（傾聴ボランティアとカフェの提供）による被災者支援を行いました。その後、2013年度にはパル・パラソルカフェ参加者が再び仮設住宅を訪問し、被災地の現状や、今必要としている支援について生の声を聞いてきました。2014年度からは仮設住宅自治会の要請に応じ、組合員とともに「夏祭り」への出店と手伝いに参加。同時に南三陸スタディツアーも実施し、被災地の現状への理解を深めています。

日　程　2015年7月25日（土）～26日（日）

参加者　35人（パルシステム東京組合員21人、組合員外協力者1人、役職員13人）

企画行程

1日目	●東松島市ひびき工業団地仮設住宅、根古仮設住宅合同夏祭り支援 ●自治会の方々との懇親会
2日目	●石巻、南三陸視察 大川小学校視察 ≫ 戸倉さんたろ『汐だまり』見学 ≫ たみこの海パック作業場見学 ≫ 戸倉中学校、防災庁舎視察（語り部） ≫ 農漁家レストラン松野や（昼食と体験談） ≫ 南三陸さんさん商店街（仮設商店街）

1日目 仮設住宅夏祭り支援

2015年度は宮城県東松島市のひびき工業団地仮設住宅・根古仮設住宅が合同で夏祭りを開催。その運営支援として、自治会の焼きそば、やきとり販売のお手伝いや、カキ氷、輪投げ、お菓子の詰め放題などの出店を行い、祭りを盛り上げました。祭りでは、地元の方のよさこい、フラダンス、太鼓、民謡等も披露され、にぎやかにアットホームな雰囲気で笑顔があふれていました。また、夜は自治会の方々と懇親会を行い、被災当時や今の生活の変化、地域での取り組みなどについて、お話しすることができました。

地元自治会の方々と焼きそば作り。あたたかく迎え入れてくださった自治会の皆さんに感謝！

参加者の声

●自分に何かできることがあるのかと不安でしたが、じかに（被災地のことを）知る機会を求めていたので参加させていただきました。
●（夏祭りでは）焼き鳥を担当しました。ハードでしたが、作業しながら自治会の方たちとお話ができ、充実した時間でした。祭りに来てくださった方々ともっとお話がしたかったです。
●ハンドトリートメントは男性も多く来てくださってうれしかった。「こんな時でもないとなかなか他の仮設の人達と会わない。お金もないから出掛けられない」といわれた事が心に残っています。
●お祭り終了後、テントの片付け、いすの片付けなどで疲れましたが、自治会との交流では被災当時の話が聞けて考えさせられました。1ヶ月もフロに入れず、1日におにぎり1コ、本当に大変だったのだと改めて感じました。

ツアー前に集まって事前練習をしたハンドトリートメント。リラックスするひと時を提供できました。

2日目 南三陸スタディツアー

まず、津波で多くの死者・行方不明者を出した大川小学校を訪れ、亡くなられた方々のご冥福をお祈りしました。その後、被災体験者で語り部の後藤一磨さんに同行いただき、被災当時のお話を聞きながら、戸倉中学校、防災対策庁舎を視察・慰霊しました。また、パルシステムが支援する「（社）地域再生コミュニティビジネス推進協会」が支援する「たみこの海パック」「農漁家レストラン　松野や」も訪問。阿部民子さん、松野三枝子さんより、被災体験や現在までの道のりなどのお話を聴かせていただきました。

津波で多くの被害にみまわれた大川小学校。全員で手をあわせました。

参加者の声

●大川小学校、防災対策庁舎の姿に心が痛みました。後藤一磨さんと松野三枝子さんの話は実体験に基づくもので当時の風景が目に浮かび、津波の恐ろしさを身にしみて感じました。
●“再建”にはまだまだ遠いということをこの肌と目で感じました。津波を体験した方々は話すのも辛いはずなのに、こうして、沢山の人々にあのときの出来事を伝えてくれるのは、今後の私たちに地震や津波の危険を認識させてくれてもいるなと感じました。お話や、目で見たもの、感じたものを大事に、自分に今後何が出来るのか考え、少しでも良い方向に行くように取り組みたいです。
●実際にあの津波を体験した人の生の声を聞くことができたのは、貴重なことでした。何を今必要としているのだろう、と思っていたのですが、「忘れないで」「がれきが残っていてもかまわないから生活基盤の復興を」という言葉が心に残りました。

阿部民子さんは漁村で海と向き合い続けるという思いで、「たみこの海パック」経営を開始。地元の雇用を作りだしています。

輪投げゲーム、老いも若きも童心に返って、一喜一憂！笑い声がたえませんでした。

青空の下、地元の方々が出し物を披露。フラダンスに微笑み、地元民謡では涙も。

懇親会では、当時・今の生活のお話に考えさせられました。地域の集まりや趣味の話などでも盛り上がりました。

当時の町や避難の様子を語るガイドの後藤さん。「多くの方に現状を理解し、行政に意見を届けてもらいたい」との言葉も。

テレビなどで目にしてきた防災庁舎。実際に自分の目で見ることで、改めて津波被害の大きさを思い知らされます。

松野三枝子さんの被災時の壮絶な様子と再起のお話に組合員も涙を流して聴き入りました。

福島を重点とした、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウム等や被災者の体験談実情を理解する学習会、スタディツアーを継続します。

福島スタディツアー

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故によって多大な被害を受けた福島県。震災から5年が経過した今でも、県内外で約9万7千人(※)を超える方が避難生活を余儀なくされ、復興への道筋がたっているとは言いがたい状況です。

(※) 出典:ふくしま復興ステーション(2016/5/9時点)

このような状況の中、被災の実態を知り、私たちにできることを考えるため、2013年度から「福島スタディツアー」を開催しています。4回目となる今年は、いわき市を拠点に、被災地の現状や、水産現場の取り組みについて学びました。

日　程 2015年11月3日(火)～4日(水)

参加者 31人(組合員21人、役職員10人)

企画行程

1日目	宿泊先の「お宿ごはん・つだや」で昼食交流 》富岡町スタディツアー 》宿泊先「古滝屋」 》スパリゾートハワイアンズで夕食交流会 》宿泊先
2日目	小名浜魚市場見学 》小名浜漁港前「いわき・ら・ら・ミュウ」で買い物 》パルシステム福島いわきセンターで昼食交流・山菱水産「まぐろ」事前学習会 》山菱水産工場見学 》いわき被災地沿岸地域視察 》いわき駅到着、解散

1日目

「NPO法人ふよう土2100」(※)代表・里見喜生さんの案内で、避難指示解除準備区域に位置するJR「富岡駅」周辺、津波の被害にあった商店が集まって営む仮設の「浜風商店街」などを訪れ、被災の爪痕が未だ残る現状を目の当たりにしました。「原発事故のため、他県にはすぐに届いた支援が福島にはなかなか及びませんでした。その間、救える命が救えなかったという心の傷は今もみんなにあります」と里見さんは振り返りました。

※2015年度福島支援カンパ贈呈団体

「浜風商店街」で地酒や地元の食材を購入する参加者。購入することで応援の気持ちを伝えます。

駅舎は解体され線路もはずされたJR「富岡駅」。

津波で破壊された富岡の町並みは今も震災直後のまま。

2日目

試験操業という形で漁業を再開した小名浜漁協。震災後に新設された小名浜魚市場では、最新の機器が設置された放射能検査室などを見学しました。昼食はパルシステム福島いわきセンターで、パルシステム福島の方々の手作りの料理と、パルシステム商品「とろっとまぐろ丼」などでおなじみの「山菱水産(株)」のまぐろをいただきながら交流。その後、山菱水産(株)のまぐろ加工工場を見学し、厳しい放射能検査の実施状況や、被災後も奮闘するメーカーの取り組みなどを学びました。

サンマの水揚げを見学。小名浜漁協では、漁獲したすべての魚種をモニタリング検査する等、放射能対策に取り組んでいます。

パルシステム福島の皆さん手作りのおかずと山菱水産のまぐろを食べながら、交流。

山菱水産でまぐろの冷凍加工を視察。津波で被災したものの、震災後45日で出荷にこぎつけました。

参加者の声

- 4年7ヶ月たった富岡町は想像よりひどい様子で言葉が出ないです。終わっていないと実感しました。
- パルシステム福島の方々の前向きに頑張っているお姿にただ、ただ、頭が下がりました。たくさんのパワーをいただきました。私なりにできることをしていきたいと思います。
- 仮設住宅の方々の苦悩、空虚感、孤立感を思うと心が痛みました。そんな中、山菱水産さんの立ち直りには目を見張りました。海の汚染、皆様の記憶が払拭されるのを祈るばかりです。

福島を重点とした、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウム等や被災者の体験談実情を理解する学習会、スタディツアーを継続します。

福島支援カンパ

福島県で放射能から子どもたちを守る活動に取り組んでいる市民団体を支援するために、2012年度から組合員カンパを行っています。2015年度は、組合員から6,113,500円のカンパ金が寄せられました。

実施期間 2015年11月16日～12月11日

贈呈額

組合員カンパ	6,113,500円
城南信用金庫ボランティア預金利息他	1,000,180円
合計	7,113,680円

2012-2015 累計実績 37,020,880円

団体名・主な活動(※1)

贈呈額(※2) 1,142,515円

NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちね

甲状腺検診や食材、土壌の放射能検査などに取り組んでいます。2014年度の甲状腺検診の受診者は2,000名以上。放射能の影響に対する市民の不安に応えています。2015年度からは「ベータ線測定室」も開設。これまでのガンマ線測定器では計測できなかったストロンチウムやトリチウムの測定も可能になりました。さらに海洋の放射能汚染調査も開始。今後の貴重なデータになるものと期待されます。

贈呈額(※2) 1,281,413円

一般社団法人 子どもたちの健康と未来を守るプロジェクト

汚染の実態を知りたいと希望する親は大勢います。その声に応え、日常生活での防護のため、通学路や遊び場などの線量を測定。結果をマップ上に表示して、線量の状況を一目でわかるようにしています。団体から報告を受けた行政も重い腰をあげ、高線量地点を立ち入り禁止にするなど、具体的な対策も引き出しました。座談会開催、保養情報や福島の現実を伝える情報誌の発行も続けています。

贈呈額(※2) 1,181,613円

NPO法人 ふよう土2100 「交流サロンひかり」

行政の支援が届きにくい被災地での障がい児ケアにスポットをあてた活動をしています。仮設住宅などで環境の変化に戸惑う子どもたち。障がい児を育てる親たちは、悩みを抱えています。交流サロンでの悩みの共有や相談、知的障がい児や身体障がい児の一時預かり事業などで、負担の大きい障がい児をもつ親を支え、一人ひとりが地域でいきいきと過ごせる環境づくりに取り組んでいます。

贈呈額(※2) 1,157,013円

NPO法人 まつもと子ども留学基金

被災地の子どもたちが安心して遊び、学び、生活できる場所づくりをめざして、長野県松本市で設立した留学プロジェクト。放射能への不安を抱える福島では育ち盛りの子どもたちが制約の多い暮らしを余儀なくされています。そんな子どもたちがのびのびと暮らせるよう、松本市内の寮やホームステイで受け入れています。現在8人の子どもたちが親元を離れ、元気に生活しています。

贈呈額(※2) 1,379,313円

未来の福島こども基金

©広河隆一

20年来行ってきたチェルノブイリ被災者支援の経験を活かし、保養など福島の子どもたちのために活動しています。内部被ばくの健康被害から子どもたちを守るには放射能汚染の心配のない場所での保養が効果的という、チェルノブイリ事故後の検証データに基づき、関連団体の保養施設「沖縄・球美の里」では延べ2,000名近い子どもたちの滞在を受け入れています。カンパ金は保養活動のほか、健康相談活動などにも使われます。

贈呈額(※2) 971,813円

3a!郡山 (安全・安心・アクションin郡山)

『放射能から子どもを守る』ため、郡山市の母親を中心に集った会員は170人以上。最近は自主避難からの帰還や出産など、あらたに不安と直面する方々の入会が増えています。自主被ばく検査補助や健康相談、市民放射能測定所運営、ガラスバッジ無料貸与、通学路・公園の線量測定&マップ化(昨年120ヶ所以上)、行政要請、学習会開催、遠隔地野菜の頒布会、無料法律相談会など、具体的で多様な対策を続けています。

※1　各団体の活動内容は、2015年度11月時点の活動内容です。
※2　城南信用金庫に預けている「ボランティア預金」の利息分100万円、多摩市ボランティア祭で多摩センターの募金活動でカンパされた180円も各団体に分配、贈呈しています。

■ パルシステムグループ連携企画

パルシステム連合会主催の「2015年度福島子ども保養カンパ」に300,000円の組織カンパを実施しました(パルシステムグループ全体:11,616,956円)。カンパ金は、パルシステムグループが実施する次年度の保養プログラムに活用されます。

子どもの甲状腺検診開始に向けた学習会の開催とモニター検診を検討します。

子どもの甲状腺モニター検診

東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、パルシステム東京では、被災者支援活動や、食品の放射能検査の強化など、様々な取り組みを進めてきました。そんな中、組合員からは、都内での放射線被ばくへの不安の声が寄せられるようになりました。その声に応え、2015年度から、組合員の子どもを対象にした「子どもの甲状腺モニター検診」を開始しました。

■ パルシステム東京「子どもの甲状腺モニター検診」キックオフ学習会 原発事故から5年　学ぼう、考えよう、放射能とその影響

甲状腺検診に先立ち、「キックオフ学習会」を開催。小児科医の黒部信一氏を講師に、放射能のリスクと対策、甲状腺検診について理解を深めました。

日　程　2016年2月11日(木)10:00～ 12:00
会　場　パルシステム東京新宿本部2階第1・2会議室
参加者　99人(組合員74人・役職員25人)

放射能の影響は年齢が低いほど発がんなどの健康被害を及ぼす危険性が高くなると指摘する黒部医師。「汚染された食べものや空気が体内に入るたび被ばくする危険性があるのは今も変わりません」と警鐘を鳴らします。被ばくリスクを回避するための方法として、「高線量地域から離れる」「被ばく時間を短くする」、「放射能汚染の少ない、検査された食品を食べる」などの対処法を提言。また、より広範囲な甲状腺検診などの検査の重要性も強調しました。その一方で「放射能に神経質になり過ぎると、ストレスになって他の病気の原因にもなりかねない」とも、警告しました。「メディアや報道に惑わされず、正しい情報と知識を得て、適切な対応をすることが大切です。するべきことをし、あとは、のびのび子育てをしましょう」と締めくくりました。

黒部 信一 氏

小児科医、すずしろ診療所所長。チェルノブイリ原発事故以来、被ばくした子どもたちを支援。福島の子どもたちの支援も行う。「チェルノブイリ子ども基金」顧問、「未来の福島こども基金」代表。

■ パルシステム東京 子どもの甲状腺モニター検診

日　程　2016年2月20日(土)10:00～ 15:00
会　場　パルシステム東京新宿本部4階会議室
参加者　組合員・役職員の子ども66人

甲状腺検診は、エコー検査機を首にあて、画像からのう胞や結節の有無、大きさを調べる検査です。パルシステム東京の甲状腺モニター検診は、福島支援カンパの贈呈先団体「NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね」の協力のもと、66人の組合員の子どもたちを対象に行われました。今回の検診には、100人以上の申込みがあり、組合員の関心の高さが改めて浮き彫りになりました。2016年度も継続して甲状腺検診を実施し、組合員の不安な気持ちに応えていきます。

参加者の声

- 原発事故後、常に心の隅に不安がひっかかっていました。先生に直接検査をしていただき、本当に安心することができました。
- 丁寧な対応で安心して受診できました。検査室が暗くて少し怖かったのですが、先生の優しい口調と、スタッフさんの細やかな心遣いのおかげで、ドキドキも減りました。
- たくさんの方が検査を待っていることと思うので、これからも続けていってほしいです。

受診後、医師の検診結果とエコー写真をその場で受け取ります。

ソーシャルワーカーによる医療相談も合わせて実施。検診で気になった点を相談する組合員も。

福島を重点とした、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウム等や被災者の体験談実情を理解する学習会、スタディツアーを継続します。

東日本大震災復興支援シンポジウム「震災から5年、これから私たちができること」

今回で4回目となるシンポジウムでは、津波被害にスポットを当て、市民による復興支援活動の実例を紹介。「被災地を忘れない」という思いとともに、自分たちのコミュニティやネットワークで、できることを取り組んでいくことの大切さと成果を共有しました。

開催日　2016年3月5日(土) 10:00～ 15:30
会　場　パルシステム東京新宿本部2階第1・2会議室
参加者　120人(組合員44人、組合員外6人、パル未来花(ミライカ)基金助成グループ・福島支援カンパ贈呈団体39人、役職員22人、関係者9人)

絵本「きぼうのかんづめ」トークセッション

■ 被災メーカーを応援する商店街

コメディライター
須田泰成氏

震災で大きな被害を受けた水産加工会社・㈱木の屋石巻水産が、遠く離れた世田谷区・経堂のコミュニティの支援を受けながら立ち直る姿を描いた、絵本『きぼうのかんづめ』が、2012年に発行されました。絵本の仕掛人は、テレビなどでコメディライターとして活躍する須田泰成さんです。須田さんは、「震災前から経堂商店街では、いろんな飲食店が木の屋のサバ缶にほれ込み、さまざまなメニューを展開していました。そこへあの震災。崩壊した工場にたくさんの缶詰が泥だらけになっていると知った居酒屋のおかみさんの『洗えば中味は大丈夫』のひとことで、支援活動がスタートしました」ときっかけを話しました。

木の屋石巻水産
鈴木誠氏

また、木の屋石巻水産・営業部の鈴木誠さんは、「震災後に取引先が離れるなど、苦戦を強いられましたが、みなさんの応援が何よりもの励みになり、復興をすすめることができました」と感謝を口にしました。

■ 食べて応援する、から絵本の発行へ

イラストレーター
宗誠二郎氏

飲んで食べての応援は絵本の発行へと展開します。―ぼくたちのくらしが、とつぜん変わった―などの文章も担当した須田さんは、「絵本だからこそ、子どもからお年寄りまで震災の被害と復興を知っていただける」と、発行の理由を話します。「絵は応援してくれていた、イラストレーターの宗誠二郎さんにお願いしました。厳しい状況を的確に描きながらも、穏やかな表現で描いてくれました」の須田さんの言葉に、「津波直後をどう描くか、苦心しました」と答える宗さん。また放送タレントの松尾貴史さんも登場。絵本の朗読とともに、「支援と聞くと、難しく考えがちですが、このおいしさを残したい、そんな思いからスタートすればいいのではないでしょうか」と訴えました。さらに、「震災後の木の屋水産見学スタディツアーは、2年後の2013年に行いましたが、その時点でも参加はたった14人だけ」と、須田さんは関心が薄れていく状況も話します。「パルシステム東京とのタイアップも考えましょう」のエール交換で、トークセッションは終わりました。

放送タレント
松尾貴史氏

「きぼうのかんづめ」(株)ピーナイス刊

会場では、絵本の原画展も行いました

福島支援カンパ贈呈式、震災復興支援基金(愛称:パル未来花(ミライカ)基金)活動報告、映画上映

トークセッション後は、2015年度「福島支援カンパ」贈呈式、同カンパ贈呈先6団体の活動報告、昼食時には2015年度「パル未来花(ミライカ)基金」助成16グループの活動紹介、『大津波3.11 未来への記憶（NHKメディアテクノロジー制作)』の上映を行いました。参加者一同、「被災地を忘れない」「ともに支援を続けよう」の思いを再確認しました。

＊福島支援カンパ、パル未来花(ミライカ)基金の詳細は、8ページと3、4ページに記載しています。

福島を重点とした、カンパ、交流会、保養企画、シンポジウム等や被災者の体験談実情を理解する学習会、スタディツアーを継続します。

春休み！東京でリフレッシュ！「パルシステム福島親子保養企画」

福島の子どもたちの支援を目的とし、東京で心身ともにリフレッシュしていただく保養企画は今回で6回目となります。東京観光、アスレチック、パルシステム東京組合員親子との交流、パン工場見学等、東京での休日を楽しみました。

開催日　2016年3月26日（土）～28日（月）

参加者　パルシステム福島42人
（組合員親子16組39人、役員3人）

企画行程

1日目	浅草散策 》 東京スカイツリー（パルシステム東京役職員6人も参加）
2日目	平和の森公園フィールドアスレチック 》「大森海苔のふるさと館」見学 》 昼食交流 》 大森ふるさとの浜辺公園でのゲーム交流（パルシステム東京組合員親子13組32人・役職員12人も参加） 》 自由観光
3日目	（株）パルブレッド八王子工場（パルシステムのパン工場）見学（パルシステム東京役職員5人も参加）

1日目

浅草は観光客がい～っぱい。お天気も良かった！

東京スカイツリーにみんなで上ったよ。眺めが最高！

2日目

アスレチックは楽しいな～。運動後には、東京の海苔作りの学習も。福島&東京の子どもたちが一緒に楽しく学びました！

福島・東京の組合員親子の交流も！ゲームで賞品をもらってみんな笑顔。楽しく遊んで、いっぱい友達できました！

3日目

みんなが楽しみにしていたパルブレッドのパン工場見学！実際の工場に入り、親子で興味津々。見学後のパンの味は格別に美味しいね！

パルシステム福島から交流の思い出をまとめたポスターを頂きました！

参加者の声

- ●東京でいろんな経験をすることができてよかったです。（福島組合員子ども）
- ●ぼくは外遊びをあまりしないのですが、初めて遊ぶアスレチックだったので、とても楽しく遊ぶことができました。（福島組合員子ども）
- ●これまでいくつかの保養企画に参加しましたが、今回の様な交流を重視したツアーは初めてで、ひとりっこの娘にたくさんお友達ができ楽しかったようです。（福島組合員）
- ●○×ゲームとアスレチックが楽しく、福島の子ども達と友達になれました。（東京組合員）

3.11東日本大震災を「忘れない」を視点に風化させないための復興支援活動を継続します。

署名・意見書/東京都内の避難者への支援活動/他団体との連携

■ 署名・意見書

パルシステム東京では、復興支援に関わるパブリックコメントに対する意見書の提出や、署名活動などを通じて、行政への働きかけにも継続して取り組んでいます。

8月7日	「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針改定（案）」に対する意見書を復興庁に提出

＊2015年度は署名活動なし

■ 東京都内の避難者への支援活動

今も都内で生活する避難者への支援を考えるために、「広域避難者支援連絡会in東京」との連携を行っています。

7月16日	第9回広域避難者支援ミーティングin東京に職員2人が参加
9月18日	第10回広域避難者支援ミーティングin東京に職員2人が参加
10月24日	「避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」に出店及び協賛。9人（組合員ボランティア5人、役職員4人）が参加

■ 他団体との連携

これまでの支援活動を通し築かれた他団体とのネットワークを生かし、復興支援活動に取り組んでいます。

5月	「新しい東北」官民連携推進協議会からの要請に基づき、同ウェブサイトに「パル未来花基金」「福島支援カンパ」を掲載
7月4日	福島支援カンパ贈呈団体「未来の福島こども基金」総会に役員2人が参加
8月2日～6日	震災復興支援基金「パル未来花基金」助成グループ「福島こども支援・八王子」の保養キャンプへ食材支援
11月21日	未来の福島こども基金・チェルノブイリ子ども基金の活動報告会「2015年夏 子どもたちの保養・チェルノブイリと福島」を同団体と共催。87人（組合員8人、員外75人、役職員4人）が参加
12月5日	フクシマ避難支援・キエフの子ども達との交流をすすめる下町実行委員会主催「フクシマ激励キエフの子ら ウクライナ民族舞踊団『ゼルニャトコ』公演」に協賛
2016年2月12日	全国災害ボランティア支援団体ネットワーク準備会主催「災害時の連携を考える全国フォーラム」に職員2人が参加
2月13日	楢葉町社会福祉協議会及び、震災復興支援基金「パル未来花基金」助成グループ「ならは盛り上げ隊」からの要請により、同町仮設住宅「第5回ならは雪まつり2016」へ食材支援
3月2日～3日	みやぎ生協主催「避難者支援から地域のみんなでまちづくり」交流会に職員2人が参加

災害に備えた防災訓練および災害対策の強化と組合員の防災意識を高めます。

防災・減災

■首都直下地震に備えた防災訓練、事業継続計画に基づき、早期復旧対策に向けた仕組みを強化

○大規模災害対策規定を基本として、新たなパルシステム東京の事業継続計画書（BCP）を策定。

○全管理職員を対象に「首都直下地震対応図上演習」の実施（役職員57人参加）。

■組合員が防災意識を高めるための出前講座や情報提供

○パルシステム東京の防災担当職員が講師を務める防災出前講座・学習会（「災害時の食の学習会（調理・試食）」「減災Mapシミュレーション防災まち歩き」など）を14会場で開催（275人参加）。その他にも委員会独自の防災学習会が多様に取り組まれました。

○東京都生協連主催「2015年度第15期コープ災害ボランティア養成講座」にパルシステム東京から10人（組合員7人、役職員3人）が参加、修了しました。ボランティア体験や学びを通して、スキルを身につけ地域活動の一歩となることを目指しました。

■行政や他団体と連携した取り組み

○「災害時における応急生活物資等の供給及び被災者への支援等に関する協定書」締結先の足立区からの要請に応え、11月8日に開催された足立区総合防災訓練の2会場にブースを出展。足立区立第五中学校会場ブースでは防災啓発のパネル展示と防災クイズを行い、244人が来場。都立舎人公園会場ブースではパネル展示のほか、都民に配付された「東京防災」を読んだかどうかのシール投票を行い、493人が来場しました。

学習会「パルシステム商品で作る簡単非常食」。パルシステム東京防災担当職員とともに「災害時の食」を考え、調理・試食をしました。（2016/1/21江戸川センターにて）

東日本大震災から5年 ～パルシステム東京・復興支援5年のあゆみ～

東日本大震災から5年が過ぎました。震災直後に実施した「被災地・被災者支援カンパ」には多くのカンパ金が寄せられ、被災地での支援活動には役職員とともに多くの組合員が参加しました。翌年度からは原発事故で甚大な被害を受けた福島県への支援を重点にした「福島支援カンパ」に取り組んでいます。カンパ金は、子どもたちの健康と未来を守る活動に取り組んでいる団体に贈呈しています。5年前の震災の日、「私に何が出来るのだろう」と多くの人が感じ、「自分に出来る支援」を始めました。しかし、時間とともに風化もし始めています。パルシステム東京は「忘れない」という基本視点を大切に、これからも被災地・被災者の現状を知る活動を続けて、組合員とともにきめ細かく、多様な支援活動を継続していきます。

生活協同組合パルシステム東京
専務理事　辻　正一

復興支援5年のあゆみ

※2011年度～ 2015年度の復興支援活動を抜粋して掲載。
取り組みの詳細は、各年度の「東日本大震災復興支援活動報告書Pray for Japan」をご覧ください。

2011年度

- 3.11　東日本大震災発生（14時46分）緊急対策会議を開催、被害状況確認、配達の続行などを判断
- 3.14　専務理事のもと「震災対策会議」を設置し、事業の正常化、被災地支援活動を検討
- 3.15　現地支援　日本生協連の「救援・支援先連隊」として、岩手県・宮城県に職員・車両を派遣以降、全国生協の連携による各種支援で計25回・33人を派遣（～2012／3／21）
- 3.28～5.6　カンパ　「東日本大震災被災地・被災者支援カンパ」パルシステムグループで4億29万5,100円が寄せられた（うちパルシステム東京1億5,359万1,406円）
- 3.28～4.1　カンパ　「物資支援カンパ」タオル182,926枚・石けん122,597個・カイロ161,953個が寄せられた
- 4.1　都内の避難者支援　「災害支援免除制度」スタート（避難者のパルシステム手数料他を無料に）
- 7.16　現地支援　「復興支援プロジェクト」役職員474人を支援活動に派遣（～2012／2／19）
- 8.25　その他　理事会のもとに「復興支援特別委員会」を設置
- 9.17　現地支援　「パル・パラソルカフェ」に組合員ボランティアを派遣。以降同ボランティア計7回に組合員・役職員123人が参加（～2012／3／10）
- 9.30　その他　城南信用金庫の「東北地方太平洋沖地震復興ボランティア預金」に1億円を預け入れ。金利のうち100万円が義援金として福島県災害対策本部へ。翌年より、「福島支援カンパ」贈呈団体へ分配し贈呈
- 2.25　現地支援　東京災害ボランティアネットワークの「宮城県南三陸町被災者支援ボランティア」に組合員ボランティア・役職員を派遣。以降、計11回の同ボランティアに58人を派遣（～2012／11／19）
- 3.24　子ども保養　「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島の組合員親子16組43人が参加。交流会にパルシステム東京の組合員親子も参加

2012年度

- 7.23～25　子ども保養　「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島の組合員親子15組43人、東京の組合員親子5組13人が参加。同年度3月にも開催。パルシステム福島16組42人、パルシステム東京組合員3組5人が参加（3／23～25）
- 8.18　都内の避難者支援　「パル・パラソルカフェ－n大山団地夏祭り」を開催。組合員ボランティア22人が参加、計20人が来場
- 10.8～26　カンパ　「福島支援カンパ」総額13,156,300円を3団体へ贈呈（うち組合員カンパ12,156,300円）
- 1.29　都内の避難者支援　都内避難者支援として、福島県、宮城県からの避難者自主組織「青空会（新宿区）の企画にお茶菓子を提供、以降、計10回の青空会にお茶菓子の提供等を行う（～2014／9／25）
- 3.9　シンポジウム　「シンポジウム「私たちは忘れない 3・11東日本大震災～その時 今 そして未来へ～」を開催。110人（組合員62人、役職員他48人）が参加

2013年度

- 9.11　意見書・署名　「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針（案）」に対する意見書を復興庁へ提出
- 9.16～10.11　意見書・署名　原発事故被害者の救済を求める全国運動「子ども・被災者支援法の幅広い適用と早期実施　賠償の時効問題の抜本的な解決を求める請願署名」に協力、組合員から22,728筆の署名が寄せられる
- 10.4～5　スタディツアー　「福島復興応援スタディツアー」第1弾を開催。32人（組合員23人、役職員9人）が参加。同年11月に第2弾を開催。27人（組合員19人、役職員8人）が参加（11／15～16）

2013年度

- 11.11～12.13　カンパ　「福島支援カンパ」総額7,660,900円を3団体へ贈呈（うち組合員カンパ6,660,900円）
- 3.1　シンポジウム　シンポジウム「私たちは忘れない！3・11東日本大震災～その時～今～そして未来へ」を開催。64人（組合員22人、役職員42人）が参加
- 3.23～25　子ども保養　「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島の組合員親子・役職員16組37人が参加。交流会にパルシステム東京の組合員親子4組9人が参加

2014年度

- 5.30　意見書・署名　「東日本大震災の災害公営住宅と復興まちづくりの建設を最優先とすることを求める意見書」を内閣総理大臣及び復興庁大臣に提出
- 7.26～27　スタディツアー　「宮城県東松島市ひびき工業団地仮設住宅夏祭り支援ツアー」開催。34人（組合員22人、役職員12人）が参加
- 10月　助成　震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」を7月に創設。2014年度下期は12グループの活動に総額2,276,710円を助成
- 11.7～8　スタディツアー　「福島スタディツアー」を開催。23人（組合員12人、員外1人、役職員10人）が参加
- 11.17～12.5　カンパ　「福島支援カンパ」総額9,090,000円を6団体へ贈呈（うち組合員カンパ8,090,000円）
- 11月　意見書・署名　東北6県の生協連協同による「被災者生活再建支援制度の抜本的拡充を求める署名」に協力。1,130筆の署名が寄せられる
- 12.8～2.28　カンパ　パルシステム連合会主催「2014年度福島子ども保養カンパ」パルシステムグループで15,708,580円が寄せられる（うちパルシステム東京組合員より4,979,400円）
- 2.28　シンポジウム　シンポジウム「東日本大震災から4年 3・11東日本大震災～私たちは忘れない 今、福島でおこっていること～」を開催。組合員、役職員95人が参加
- 3.28～30　子ども保養　「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島の組合員親子16組40人・役職員3人が参加。交流会にパルシステム東京の組合員親子10組24人が参加

2015年度

- 4.13～5.1　意見書・署名　「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島の組合員親子13組32人が参加
- 6月　助成　原発事故被害者の救済を求める全国運動　第二期署名「原発事故被害者の住宅・健康・保養支援の立法化と完全賠償の実現を求める請願署名」を実施。16,031筆の署名を、衆・参両議院議長へ提出
- 7.25～26　スタディツアー　「宮城県東松島市『夏祭り』支援&スタディツアー」を開催。35人（組合員21人、員外協力者1人、役職員13人）が参加
- 8.7　意見書・署名　「被災者生活支援等施策の推進に関する基本的な方針改定（案）」に対する意見書を復興庁に提出
- 11.3～4　スタディツアー　「福島スタディツアー」を開催。31人（組合員21人、役職員10人）が参加
- 11.16～12.11　カンパ　「福島支援カンパ」総額7,113,680円を6団体へ贈呈（うち組合員カンパ6,113,500円）
- 2.20　甲状腺検診　「子どもの甲状腺モニター検診」を実施。組合員・役職員の子ども66人が受診。同月11日に、検診に先駆けて甲状腺モニター検診キックオフ学習会」を開催。99人（組合員74人、役職員25人）が参加
- 3.5　シンポジウム　シンポジウム「震災から5年、これから私たちにできること」を開催。120人（組合員44人、員外6人、団体関係者39人、役職員22人、関係者9人）が参加
- 3.26～28　子ども保養　「パルシステム福島親子交流企画」を開催。パルシステム福島の組合員親子16組39人・役職員3人が参加。交流会にパルシステム東京の組合員親子13組32人が参加

2011年度

組合員・役職員による復興支援活動

役職員による被災地支援ボランティア「復興支援プロジェクト」

3つの支援先、①東京災害ボランティアネットワーク（宮城県登米市、南三陸町）、②ピースボート（岩手県石巻市）、③コア産地千葉県旭市での支援活動に計61回、474人の役職員が参加。仮設住宅での「ふれあい喫茶」やパルシステムのメーカー「高橋徳治商店」の工場清掃支援、風評被害に苦しむ産地での農作業支援などを行いました。

岩手県石巻市、高橋徳治商店の加工機械の洗浄作業（2011）

組合員による傾聴ボランティア「パル・パラソルカフェ」

組合員（公募ボランティア）と役職員が一体となり、宮城県東松島市の仮設住宅で、カフェの開設（軽食、飲料の提供等）、傾聴活動を行いました。カフェは仮設住宅の敷地や集会所で開催され、組合員も交えた住民同士の交流が活発に行われました。2012年3月までに計7回、組合員63人、役職員60人が参加。

パル・パラソルカフェ（2011/10）

2011年度～

～福島への支援活動～ 福島親子交流企画

東京電力福島第一原発事故により、放射能の影響に苦しむ福島県への支援を推進しています。2011年度から、パルシステム福島の子ども達の保養を目的とした企画を開催。パルシステム東京の組合員親子との交流も行っています。

サマーランドで思い切り体を動かしました。（2012/7）

パルシステムのメーカー「共生食品」の工場でうどん作りを見学（2013/3）

2012年度～

～福島への支援活動～ 福島支援カンパ

放射能から子どもを守る活動に取り組む団体へのカンパを継続しています。2015年度までの累計は総額37,020,880円。

福島支援カンパ贈呈式（2014/1）

2012年度～

東日本大震災 復興支援シンポジウム

「3.11を忘れない」をキーワードに毎年開催。「私にできること」をともに考える場としています。

小児科医・山田真氏講演「今、福島でおこっていること」（2015/2）

2014年度～

震災復興支援基金「パル未来花（ミライカ）基金」

組合員の復興支援活動を資金面で応援するために、2014年度に設立した震災復興支援基金。「パル未来花（ミライカ）基金」は、組合員から募集した愛称。

助成グループ活動の様子（「ならは盛り上げ隊」2015/11）

2014年度報告会。助成グループの話に熱心に耳を傾ける組合員の姿も。（2015/9）

2013年度～

福島スタディツアー

パルシステム福島・和田佳代子理事長（当時）の「福島に来て、現状を知ってほしい」との呼びかけをきっかけに、2013年度からスタートしたスタディツアー。被災の実態を知り、私達にできることを考えるきっかけとなっています。

ふくしまオーガニックコットンプロジェクトに参加（2013/10）

2014年度～

東松島市仮設住宅「夏祭り」支援ツアー

震災直後、組合員が傾聴ボランティア「パル・パラソルカフェ」の活動を行った宮城県東松島市の仮設住宅で、2014年度から自治会の夏祭り支援を行っています。

提供した流しそうめんは仮設住宅の方やボランティア団体にも大好評（2014/7）

2015年度～

子どもの甲状腺モニター検診

組合員の不安を軽減し、安心して生活することを目的に2015年度から、子どもの甲状腺モニター検診を開始。今後も継続して実施します。

検診には、組合員・役職員の子ども66人が参加。（2016/2）

検診に先立ち、「キックオフ学習会」を開催。放射能のリスクと対策などについて学びました。（2016/2）

パルシステム東京　東日本大震災復興支援活動報告書2015

Pray for Japan

発　　行：生活協同組合パルシステム東京
発 行 日：2016年7月4日
発行部数：1,000部
住　　所：〒169-8526
新宿区大久保2-2-6ラクアス東新宿7F
E-mail：palsystem-tokyo@pal.or.jp
印　　刷：スピックバンスター株式会社